



2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月14日

上場会社名 株式会社 ヤマノホールディングス

上場取引所 東

コード番号 7571 URL <https://www.yamano-hd.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼最高経営責任者 (C (氏名) 山野 義友
EO)

問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員管理本部長 (氏名) 岡田 充弘

TEL 03-3376-7878

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	9,557	4.2	29	76.0	17	84.2	80	
2021年3月期第3四半期	9,170	10.5	122		108		242	

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 111百万円 (%) 2021年3月期第3四半期 214百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	2.32	
2021年3月期第3四半期	7.22	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	10,332	992	9.6
2021年3月期	10,988	1,008	9.2

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 992百万円 2021年3月期 1,008百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		0.00	0.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)				1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,000	10.2	230	30.7	200	38.5	100		2.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	35,830,058 株	2021年3月期	34,497,058 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	956,869 株	2021年3月期	956,869 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	34,868,342 株	2021年3月期3Q	33,540,189 株

当社は「株式給付信託(BBT)」を導入しており、株主資本に自己株式として計上されている「株式給付信託(BBT)」に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。また1株当たり純資産額の算定上、期末発行株式総数から控除する自己株式に含めております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・当社は、決算補足説明資料を、この決算短信公表後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における国内経済は、新型コロナウイルスの感染状況により断続的に経済活動が規制される厳しい状況が続きました。ワクチン接種の普及に伴う感染者数の減少と活動制限緩和を背景として個人消費に持ち直しの兆しは見られたものの、新たな変異株の感染拡大が懸念され、依然として先行きが不透明な状況にあります。

当社グループにおきましては、売上高は全般的に回復傾向にあるものの、一部店舗の営業自粛や営業時間の短縮が断続的に実施されるなどの影響により、回復は緩やかなものに留まりました。

そのような状況の下、当社グループでは、業務の効率化の推進及び店舗の管理・運営コストの削減に取り組み、事業基盤の強化に努めてまいりました。また、既存事業のDX化を促進し、新たなビジネスモデル創出を図るため、2021年5月に専門家を招聘しDX推進室を立上げ、開発・検証に着手いたしました。

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は95億57百万円（前年同期比4.2%増）となりましたが、休業・時間短縮営業中の固定費等の特別損失への振替が大幅に減少したこと等により営業利益は29百万円（前年同期比76.0%減）、経常利益は17百万円（前年同期比84.2%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失については、売上高の回復に加え、新型コロナウイルス感染症による損失が大幅に減少したこと等により、80百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失2億42百万円）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

・美容事業

美容事業においては、予約状況に合わせた勤務体制管理の徹底をはじめとしたコストコントロールに努めるとともに、不採算店舗の閉鎖を行い、収益構造の強化を図ってまいりました。当四半期は、前年同四半期より11店舗減となった影響があり、売上高は15億28百万円（前年同期比5.7%減）となりました。損益面では、不採算店舗の閉鎖等による収益改善はあったものの、一部固定費の特別損失への振替が前四半期に比べ1億67百万円減少したことがあり、セグメント損失は27百万円（前年同期はセグメント利益51百万円）となりました。美容事業では運営コスト削減に引き続き努めるとともに、当四半期より美容サロンではカット&カラーにスパを加えた新メニューを導入、ネイルサロンではフット・ハンドケアメニューに加えて新たにフェイシャルケアメニュー導入するなど、お客さまニーズに応える新メニューの開発を推進しております。また、ネイルと美容サロンの複合形態の新店舗出店を計画し、収益力向上に努めております。

・和装宝飾事業

和装宝飾事業においては、緊急事態宣言発出による一部店舗休業や大型展示販売会の最終日を急遽中止とした影響のほか、第2四半期より引き続き受注商品の引渡し停滞による影響がありましたが、通常営業店舗が増加したことによる売上高回復傾向が継続し、また2019年11月に譲受けた和装小売店舗「かのこ」でのリスタートプランが順調に進捗し、売上高の好調を維持したこと等により、売上高は69億31百万円（前年同期比8.3%増）となり、セグメント利益は、一部固定費の特別損失への振替が前四半期に比べ1億79百万円減少したものの、40百万円（前年同期比467.2%）と大きく改善しました。和装宝飾事業では、店頭販売活性化のキャンペーン強化や子会社の株式会社すずのきでの新コンセプトショップ「たまゆう川口店」の出店を実施いたしました。また、コロナ感染状況を見極めつつ、従来からのソフト戦略である「前楽結び着方教室」や着る機会を提供する「きもの会」を、10月以降、少人数・小規模で感染防止対策を徹底しながら徐々に再開し、お客さま満足の向上と新たなきものファンの獲得に努めております。

・DSM事業

DSM事業においては、展示販売会での集客は依然として厳しく、コロナ禍で需要が高まった健康関連商品の販売を推進し、訪問販売の強化に努めてまいりましたが、事業所の統廃合や販売員稼働の低下等の影響もあり、売上高は7億25百万円（前年同期比8.7%減）となりました。一方でコスト管理の強化を推進し、セグメント損失は19百万円（前年同期はセグメント損失32百万円）と改善いたしました。DSM事業では、組織再編による人材開発の強化及び販売体制の再構築を実施し、提案商品の抜本的な見直しを図るとともに、新たな販売チャネル構築のため定期購入システム導入検討や、お客さまの『モノ』から『コト』へのニーズ変化に対応する新たなサービス開発として「暮らしお困り事サポート」への取組みを計画するなど、新規・休眠顧客の需要喚起に努めてまいります。

・その他の事業

その他の事業の収益は、株式会社マンツーマンアカデミーの学習塾運営収益、株式会社ヤマノセイビングの前払い式特定取引業による手数料収益及び一般社団法人日本技術技能教育協会の着物着付教室の運営収益、DX推進室の運営収益であります。売上高は、学習塾事業が順調に推移したこともあり3億71百万円（前年同期比5.5%増）となりました。セグメント損失は、DX推進室の稼働開始に伴う開発・検証費用の発生等があり、24百万円（前年同期はセグメント利益8百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて6億56百万円減少し103億32百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金が2億20百万円増加、商品及び製品が1億67百万円増加、現金及び預金が9億54百万円減少し、敷金及び保証金が55百万円減少したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて6億41百万円減少し93億39百万円となりました。これは主に、電子記録債務が2億88百万円増加、前受金が4億12百万円増加し、支払手形及び買掛金が87百万円減少、未払金が5億80百万円減少、流動負債のその他が5億43百万円減少したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ15百万円減少し9億92百万円となりました。これは、第三者割当増資による資本金及び資本剰余金の増加95百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失計上による利益剰余金80百万円の減少、その他有価証券評価差額金30百万円の減少によるものです。なお、2021年6月29日開催の定時株主総会決議に基づき2021年8月2日付で無償減資を実施し、資本金が117,988千円減少、資本剰余金が117,988千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が30,000千円、資本剰余金が165,976千円となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の業績予想につきましては、2021年5月14日公表の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,474,122	4,520,059
受取手形及び売掛金	2,271,348	2,492,195
商品及び製品	1,392,885	1,560,442
原材料及び貯蔵品	3,302	1,228
その他	275,283	273,947
貸倒引当金	△20,101	△11,760
流動資産合計	9,396,840	8,836,113
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,057,805	1,052,582
減価償却累計額	△719,461	△727,460
建物及び構築物(純額)	338,344	325,121
機械装置及び運搬具	9,188	-
減価償却累計額	△6,348	-
機械装置及び運搬具(純額)	2,840	-
工具、器具及び備品	263,210	269,073
減価償却累計額	△231,503	△237,339
工具、器具及び備品(純額)	31,707	31,733
土地	40,211	40,211
リース資産	75,755	79,777
減価償却累計額	△43,713	△47,568
リース資産(純額)	32,041	32,208
有形固定資産合計	445,145	429,276
無形固定資産		
のれん	3,673	2,539
その他	17,217	13,648
無形固定資産合計	20,890	16,188
投資その他の資産		
投資有価証券	181,914	151,855
長期貸付金	9,608	8,810
敷金及び保証金	902,521	847,436
その他	57,785	67,357
貸倒引当金	△25,775	△25,025
投資その他の資産合計	1,126,053	1,050,433
固定資産合計	1,592,089	1,495,898
資産合計	10,988,930	10,332,012

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,395,202	1,307,649
電子記録債務	274,345	562,983
短期借入金	2,316,720	2,329,280
1年内償還予定の社債	9,600	-
1年内返済予定の長期借入金	307,910	330,051
未払金	1,135,281	554,324
前受金	1,373,530	1,786,076
未払法人税等	69,060	19,017
賞与引当金	45,200	47,432
ポイント引当金	29,785	-
株主優待引当金	6,020	6,020
資産除去債務	4,322	10,822
その他	842,848	299,786
流動負債合計	7,809,827	7,253,444
固定負債		
長期借入金	1,684,444	1,638,855
長期末払金	63,338	52,320
退職給付に係る負債	23,145	23,506
役員株式給付引当金	28,721	28,721
繰延税金負債	16,985	15,262
資産除去債務	307,938	291,159
その他	46,410	35,923
固定負債合計	2,170,983	2,085,748
負債合計	9,980,811	9,339,192
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	30,000
資本剰余金	-	165,976
利益剰余金	1,022,874	941,939
自己株式	△99,303	△99,303
株主資本合計	1,023,570	1,038,611
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△15,451	△45,791
その他の包括利益累計額合計	△15,451	△45,791
非支配株主持分	-	-
純資産合計	1,008,119	992,819
負債純資産合計	10,988,930	10,332,012

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	9,170,091	9,557,812
売上原価	4,510,684	4,755,371
売上総利益	4,659,407	4,802,441
販売費及び一般管理費	4,536,719	4,773,020
営業利益	122,687	29,420
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,775	2,143
受取地代家賃	1,776	1,314
助成金収入	3,271	2,004
その他	6,810	9,361
営業外収益合計	13,634	14,823
営業外費用		
支払利息	16,560	20,751
その他	11,326	6,364
営業外費用合計	27,886	27,116
経常利益	108,435	17,128
特別利益		
固定資産売却益	-	3,432
雇用調整助成金	331,444	190,926
その他	31,689	6,138
特別利益合計	363,133	200,496
特別損失		
固定資産売却損	4,115	-
固定資産除却損	0	195
投資有価証券評価損	3,853	-
減損損失	21,155	-
新型コロナウイルス感染症による損失	653,152	279,884
店舗閉鎖損失	2,194	-
特別損失合計	684,471	280,079
税金等調整前四半期純損失(△)	△212,903	△62,455
法人税、住民税及び事業税	27,681	20,547
法人税等調整額	1,636	△2,067
法人税等合計	29,317	18,479
四半期純損失(△)	△242,220	△80,934
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△242,220	△80,934

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純損失(△)	△242,220	△80,934
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28,191	△30,340
その他の包括利益合計	28,191	△30,340
四半期包括利益	△214,028	△111,275
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△214,028	△111,275
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

株主資本の金額の著しい変動

当社は、2021年4月2日付で、伊藤和則氏から第三者割当増資の払込みを受け、資本金が47,988千円、資本剰余金が47,988千円増加しました。

また、2021年6月29日開催の定時株主総会において無償減資について決議し、当該決議については2021年8月2日に効力が発生しております。この結果、資本金が117,988千円減少、資本剰余金が117,988千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が30,000千円、資本剰余金が165,976千円となっております。

(会計方針の変更)

当第3四半期連結累計期間
(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、他社が運営するポイントプログラムに参加し、他社が顧客へ付与するポイントの一部を当社が支払う額について、従来は、販売費及び一般管理費として処理する方法によっておりましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は27,132千円減少し、販売費および一般管理費が同額減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高へ与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	美容	和装宝飾	D S M	計
売上高				
外部顧客への売上高	1,621,201	6,401,565	794,678	8,817,444
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9	—	—	9
計	1,621,210	6,401,565	794,678	8,817,453
セグメント利益又は損失(△)	51,598	7,200	△32,369	26,429

	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高				
外部顧客への売上高	352,647	9,170,091	—	9,170,091
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,375	5,384	△5,384	—
計	358,022	9,175,476	△5,384	9,170,091
セグメント利益又は損失(△)	8,761	35,191	87,496	122,687

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである教育事業及びその他の事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額87,496千円には、のれんの償却費△55,300千円、各報告セグメントに配分していない全社費用142,788千円及び棚卸資産の調整額8千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	美容	和装宝飾	D S M	その他	全社・消去	合計
減損損失	10,271	10,884	—	—	—	21,155

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	美容	和装宝飾	D S M	計
売上高				
顧客との契約から生じる収益	1,528,970	6,834,656	725,703	9,089,331
その他の収益	—	96,572	—	96,572
外部顧客への売上高	1,528,970	6,931,229	725,703	9,185,903
セグメント間の内部売上高 又は振替高	51	—	—	51
計	1,529,021	6,931,229	725,703	9,185,954
セグメント利益又は損失(△)	△27,639	40,837	△19,549	△6,350

	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高				
顧客との契約から生じる収益	371,909	9,461,240	—	9,461,240
その他の収益	—	96,572	—	96,572
外部顧客への売上高	371,909	9,557,812	—	9,557,812
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,129	5,180	△5,180	—
計	377,038	9,562,993	△5,180	9,557,812
セグメント利益又は損失(△)	△24,844	△31,195	60,616	29,420

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである教育事業及びその他の事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額60,616千円には、のれんの償却費△1,134千円、各報告セグメントに配分していない全社費用61,752千円及び棚卸資産の調整額△2千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「第4 経理の状況」「1 四半期連結財務諸表 注記事項 会計方針の変更」に記載の通り、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上高は、「美容」が9,214千円減少、「和装宝飾」が11,845千円減少、「D S M」が6,073千円減少しておりますが、各セグメントにおいて販売費及び一般管理費が同額減少しているため、セグメント損失に与える影響はありません。